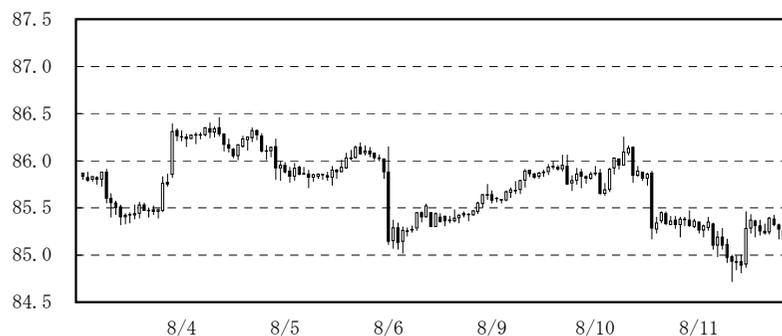


SMBC FX MARKET REPORT

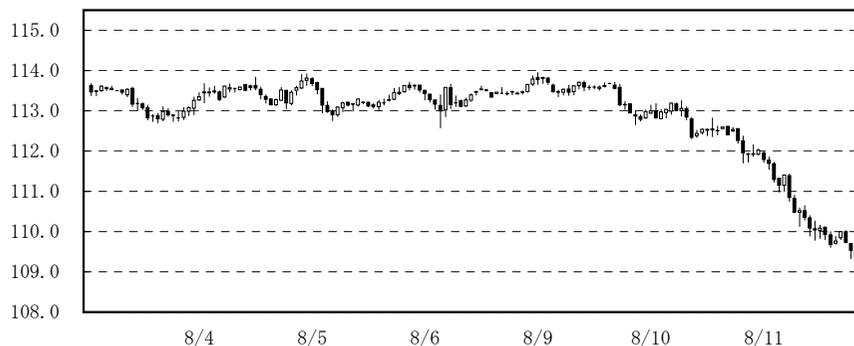
三井住友銀行
市場営業推進部

2010年8月12日（木曜日）

●米ドル／円相場推移



●ユーロ円相場推移



【昨日の主要通貨レンジ】

(データ出所:ロイター)

	9:00	TKY	17:00	海外	CLS
ドル円	85.31/33	85.06-5.47	85.09/11	84.72-5.46	85.31/33
ユーロドル	1.3155/57	1.3031-161	1.3062/64	1.2860-078	1.2861/63
ユーロ円	112.23/26	110.98-2.37	111.15/18	109.61-1.43	109.72/75

【通貨オプション】
(NY CLOSE)

ボラティリティ	1M ATM	(前日比)	1M R/R
ドル円	11.45%	(+0.25)	1.70JPY CALL
ユーロ円	14.51%	(+1.13)	2.35EUR PUT

【その他市場】

		終値	(前日比)
株式	日・日経平均	9,292.85	(-258.20)
	米・NYダウ	10,378.83	(-265.42)
	米・NASDAQ	2,208.63	(-68.54)
	独・DAX	6,154.07	(-132.18)
	英・FT100	5,245.21	(-131.20)
債券	日10年国債	1.005%	(-0.025)
	米10年国債	2.678%	(-0.083)
	米2年国債	0.517%	(-0.012)
	独10年国債	2.423%	(-0.119)
	英10年国債	3.139%	(-0.116)
商品市況	金(NY)	1,199.20	(+1.20)
	CRB	268.83	(-3.45)
	WTI	78.02	(-2.23)

【昨日のトピックス】

<東京時間>

6月機械受注(船舶・電力除く民需)・・・前月比+1.6%(予想+5.5%、前回▲9.1%)
7月国内企業物価指数・・・前年比▲0.1%(予想+0.1%、前回▲0.5%→▲0.4%)
中国7月CPI・・・前年比+3.3%(予想+3.3%、前回+2.9%)
中国7月PPI・・・前年比+4.8%(予想+5.7%、前回+6.4%)
中国7月小売売上高・・・前年比+17.9%(予想+18.4%、前回+18.3%)
中国7月鉱工業生産・・・前年比+13.4%(予想+13.2%、前回+13.7%)
中国7月固定資産投資・・・前年比+24.9%(予想25.2%、前回+25.5%)
大塚内閣府副大臣・・・「為替介入にコメントする立場にないが、予断もてない」
金融経済月報・・・「先行きの輸出や生産、増加ペースが緩やかになっていくとみられる」

<海外時間>

英7月失業率・・・4.5%(予想4.5%、前回4.5%)
英中銀インフレ・レポート・・・
「見通しは『非常に不透明』、金融政策をどちらの方向にも動かす用意」
「英GDP予想の下方修正、緊縮財政・心理悪化・信用状況の引き締まりを反映」
米6月貿易収支・・・▲499.0億ドル(予想▲420.0億ドル、前回▲422.7億ドル→▲419.8億ドル)
米10年債入札・・・最高落札利回り2.730%(前回3.119%)、応札倍率3.04倍(前回3.09倍)

【本日の行事・経済指標等】

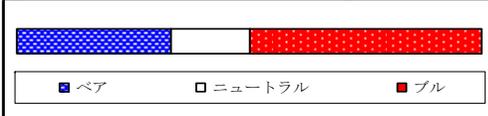
<国内>

6月鉱工業生産(確報) 6月設備稼働率

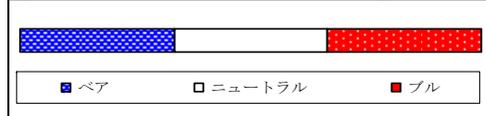
<海外>

豪7月失業率 米30年債入札
ユーロ圏6月鉱工業生産 デュークFRB理事講演
8月ECB月報

【ドル円・ブルベアイメージ】



【ユーロ円・ブルベアイメージ】



【為替相場動向】

ドル円は84円72銭まで下落

東京時間のドル円は85円台前半でスタート。前日のFOMCを受けてドルの先安感が強まり、また、日経平均株価が大幅に下落して推移したことでドル円は85円台前半、ユーロ円は111円台後半で上値の重い展開が続いた。中国経済指標(左記)は、ほぼ予想通りの結果となったため、為替相場への影響は限定的だった。欧州勢参入後、欧州株やNYダウ先物が軟化したことでドル買いと円買いが強まると、ドル円は85円06銭まで、ユーロ円は110円98銭まで下落して取引を終了した。

海外時間序盤、英インフレ・レポート(左記)がハト派的な内容となったことで、ポンドが下落。FOMCで米景気見通しが下方修正されたこともあり、世界経済の先行き不透明感が意識された。リスク回避の動きが強まり、ドル買い・円買いの展開が再び優勢になると、ドル円は昨年安値の84円82銭を割り込んで84円72銭まで下落、ユーロ円も110円台前半まで値を下げた。NYダウも大きく値を下げて寄付、前日比200ドル超えて下落したまま軟調に推移した。欧州通貨や資源国通貨が売られ、ドルの買い戻しが強まると、ドル円は85円台半ばまで反発。一方、ユーロドルは1.2860ドルまで下落、ユーロ円は109円61銭まで下値を拡大した。

昨年安値を更新したドル円は一段安の可能性も

ドル円は節目の85円丁度を割り込み、15年ぶり安値水準となる84円72銭まで下落。前回安値は1995年につけたドル円の史上最安値79円75銭まで遡る。昨年安値の84円82銭をつけた際には、介入警戒感から直後に大きく買い戻される展開となった。しかし、今回は比較的緩やかなペースでドル円の下落が進んでおり、介入への警戒感が高まりづらい。お盆を迎え市場参加者も少なくなる中、ドル円は一段安となる可能性もありそうだ。

*ブルベアイメージは弊行カスタマーディーラーに対するアンケート調査結果をイメージ化したもの

本資料は純粋に情報提供を目的とし、弊行が信頼に足り、正確であると判断した情報に基づき作成されていますが、弊行はその情報の正確性や完全性を保証するものではありません。記載された意見や予測等は、作成当時の筆者の一見解を示すのみであり、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は、いかなる取引の勧誘や推奨を行うものではありません。記載された内容を投資等にご利用なさる際には、くれぐれもご自身の判断でなさるよう、お願い申し上げます。本資料の一部又は全部を問わず、弊行の許可なしに複製や再配布することを禁じます。本件に関するお問い合わせは、お取引の三井住友銀行の窓口までお願い致します。